

第38回議会報告会～市民と議会の合同研修会～を開催

令和4年2月5日(土)中央公民館にて、法政大学の土山希美枝教授を講師に招き、「一般質問を市民と議会の資源にするには」をテーマに研修会を開きました。議員と議会モニターは会場で、市民の皆様にはオンラインで参加していただき、第2部ではそれぞれ活発に意見交換を行いました。主な内容は以下の通りです。

【講演】「一般質問を市民と議会の資源にするには」

(1) たかが一般質問、されど一般質問

一般質問は、議員のパフォーマンスと思われがちだが、市民にとってのわがまちの課題を吸い上げ、行政に施策として提案できる場である。

(2) 自治体と「政策議会」

自治体は、市民が必要不可欠とする政策・制度を整備するための機構である。議会も政策・制度が良い状態であるように、付託された権限を使って制御する政策主体としての「政策議会」である必要がある。

(3) 議員にとっての、議会にとっての、市民にとっての一般質問

議員として、政治家としての自分の活動と知見を集約し、わがまちの政策・制度の争点を提起し、監査・提案できる機関である。議会の一部である議員が行政の行政執行のあり方に監査・提案でき、課題を共有しまちをよくする機会である。

(4) 一般質問はなぜ「機能していない」

一般質問「そのもの」の課題として残念な質問、もったいない質問の中に、公表数字を確認するだけの質問や論点をいれすぎてぼやけてしまった質問等がある。

(5) 一般質問を市民と議会の「まちをよくする」ための資源に

議員の質問は、議員の政治家としての活動と知見の集約であり、議会と市民の政策資源として活用する必要がある。まちをよくするために、議員と議会と市民が課題を共有し、議会として政策提案できる仕組みづくりが必要である。

【第2部】意見交換会で出た主な意見

- ・各議員が会派の垣根をこえて、要望を共有することが大切。
- ・一般質問での答弁への追及が甘いのでは。
- ・一般質問が基になって、政策実現できているものもある。
- ・一般質問で言ったことを政策提言に繋げていく必要がある。
- ・モニター同士の関わりも深くできればよかったと思う。
- ・議会全体で取組むテーマの選定と仕組みづくりが難しい。
- ・一般質問は個々のスタイルで行うものであり、視点の違い、世代や地域によって共有できるテーマは違う。
- ・個々が取り上げた一般質問で市全域で共有すべき課題とし、委員会等で取り上げて、議会全体で取り組んでいけるような仕組みづくりが重要。
- ・議会傍聴者を増やすため、事前に公共施設等に一般質問で何をやるのかを掲示するのも一つの方法。

講演を聞き今後やるべきこと

市全体で共有すべき課題は、委員会等で取り上げ、議会全体として取り組むことに繋がれば、議員個人で取り上げるより影響力が出てくる。それが出来るのが理想であり、チーム議会として政策立案をしていくことに繋がれば、個人の一般質問も市民と議会の資源になっていく。実際には仕組みづくりに課題が多く議員一人ひとりの努力・協力が必要不可欠になってくる。



議員固有の機能である一般質問を、個人のパフォーマンスではなく議会として活かして、市民福祉の増進に努めていくことが出来れば、様々な議員が居る議会から活発な政策提言ができ、議会として機能強化が図れる。チーム議会の環境が醸成されてきた知立市議会もそろそろ一般質問の機能向上に努める時期に入ってきている。